

人間社会学部

試験問題冊子

(A日程 1月30日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

待ち合わせ場所にすでに相手が到着していて、しかもそのひとが後ろ向きに立っていたような場合、一瞬、どんなふうに声をかけようかと、迷いながら背後からそのひとに近づいていく。

前からだったら、目と目があえば、それで済む。待った？ 久しぶりね、さあ、行く——会話は船のように自然と進む。

ヒトの無防備な背中を前にすると、なぜか言葉が失ってしまう。つきあってきたのは、どのひととも、彼らの正面ばかりのような気がして、心もとなく背中を眺めやる。

そのひとがくるつと後ろを振り向けば、 a わたしは、そのひとの世界に合流できるのに、後ろ姿は、閉ざされた扉だ。

そのままわたしが行きすぎれば、そのひととわたしは永遠に交わらないまま、これに最後に別れてしまうかもしれない。

待ち合わせの約束を一方的に破棄するのだから、これは裏切りだが、出会うことは常におそろしい衝突でもあるから、衝突をさせて、ひとの背後を、ひたすら逃げ続けるという生き方もある。例えば犯罪者か逃亡者のように。

そういう考えが、ひとの背を見ながら、わたしのなかにひょこつと現れる。そのことはわたしを少し驚かす。わたしは何かを恐れている。

そもそも背中はそのひとの無意識があふれているように感じられる場所である。だから誰かの後ろ姿を見ると、見てはならないものを見たようで後ろめたい^ウ感じを覚えることもある。

背中周りに広がっているのが、そのひとの「背後」と呼ばれる空間だ。自分の視線がまったく届かない、見えない後ろ半分のこと。わたしはこの空間になぜか惹かれる。見えない、というところに惹かれているのだろうか。

ひとは自分の背後の世界で、何が起きているのか知り得ない。だから背後は、そのひとの後ろに広がっているのに、そのひとだけをユイ¹イツ、排除して広がっている。

背後という空間から、その人自身が排除されているといっても、それはひとと背後が無関係であるということではない。振り返りさえすれば、いつでもひとは、自分の背後がそこにあることに気づく。 b、振り返ったのち一瞬にして、そこは背後ではな

くなるわけだが、先ほどまで背後としてあったケハイ²は、すぐには消えないで残っている。

そのとき今度は正面であったところが、自分の背後と化している。しかし意識が及ぶのは、常に現前の世界で、背後のことはソクザ³に忘れられる。視線の行くところが意識の向くところだ。だから目を開けて背後を考えるのは、開いている目を、ただの「穴」とすることに他ならない。その穴のなかを、虚しい風が通り抜けていく。背後を思うとき、自分^エが、がらんと頭の蓋骨になったような気がする。

ひとと話をしていた話の途中で、そのひとの背後にふと視線が及ぶことがある。

何かとても大切なことを話しているときに、後ろで樹木がはげしく風に揺られていたり、夕日がまぶしく差し込んでいたり、鳥が落ちてきたり、滝が流れていたり、不吉な雲が流れていたりするのに目がとまる。

不思議な感じがする。こちら側の世界と触れ合わない、もうひとつの世界が同時進行で存在している。そのことに気づくとおそろしくなる。背後とはまるで、彼岸のようではないか。

そしてわたしが見ることができるのは、常に、他者の背後ばかりだ。見えるのが、いつも、ひとの死ばかりであるということ、これはまったく同じ構造。

自分の死が見えないように、自分の背後は見えないし、そもそもわたしは、自分の後ろ側など、まるで考えもせずに暮らしている。見ることができないし、見る必要もないのだ。

c、着物を着て、帯の具合を見たいときなど、あわせ鏡で確認することはある。このことを考えると、やっぱり鏡とは、魔境へひとを誘う魔の道具であると思う。しかも、背後へは、この道具をダブルで使用しなければならぬのだから、ひとが自分の背後へ到達すること、おそろしさと困難さがわらうというものだ。

ともかく、背後は死角である。

死角を衝かれる時、ひとは驚く。わたしがボウトウに、後ろからどう、ひとに声をかけようかと迷ったのも、相手をびっくりさせないためにはどうするのがいいのか、という思いもあった。

そもそも身体に触れないで、声だけでそのひとを振り向かせることはできるのだろうか。

簡単なのは名前を呼ぶことだ。名前というのは、そのひとを呼び出す強力な呪文みたいなものである。

わたしは会話のなかで、対面するひとの名前を呼ばずして、そのひとと会話を進めることに、いつも居心地の悪い思いを持つ。あなたという二人称はあるけれども、

dで呼びかけずにはいられない。相手のひとにも名を呼んでほしい。

それはわたしが、何かeで、この同じ場に、対話の相手と呼び出し、呼び出され、ともに在りたいと願うからなのだろう。

名前を呼ばずに、例えば、あのーお待たせしました、とか、小池です、こんにちは、とか、そういう類の言葉を投げかけて、そのひとが確実に振り向くかどうか。わたしにはほとんど自信がない。

だからそういうとき、やっぱり、相手の肩のあたりを、ぼんと軽く叩くかもしれない。あるいはわざわざ正面へ、まわるか。

背後の世界をくぐるとき、わたしたちは一瞬にしろ、言葉というものを、放棄しなければならぬということなのだろうか。

(小池昌代『背・背中・背後』より一部改変)

問1 傍線部1、2、3、5のカタカナを漢字に直し、傍線部4の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1

 2

 3

 4

 5

問2 傍線部ア「ヒトの無防備な背中を前にすると、なぜか言葉を失ってしまう」について、それは「背中」がどのような場所だからと考えられるか。最も適当なものを、次の①～④から一つ選びなさい。

- ① 背中は常にひとを裏切っているように感じられる場所だから
- ② 背中は一ひとの無意識が漏れ出しているように感じられる場所だから
- ③ 背中は一ひとの別れを象徴しているように感じられる場所だから
- ④ 背中は一ひとと衝突し、脅かしているように感じられる場所だから

問3 傍線部イ「心もとなく」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 相手を思いやって心を痛める
- ② はつきりせず理解しがたい
- ③ 心の中でこっそりと思う
- ④ どこか頼りなくて不安に思う

問4 空欄

、

、

 に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① a ただちに b 逆に c 例えば
- ② a すぐに b すなわち c 一方
- ③ a 反対に b 当然 c 例えば
- ④ a ただちに b もちろん c ただし

問5 傍線部ウ「後ろめたい」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 自分が悪いことをしたと感じる様子
- ② 気にかかって落ち着かない様子
- ③ 必要以上にあれこれと推測する様子
- ④ 何を考えているのかわからない様子

問6 傍線部エ「自分が、がらんどうの頭蓋骨になったような気がする」が意味する内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

5

① 「がらんどう」とは「中身がない」という意味で、自分の無力感を感じているということ。

② 「がらんどう」とは「広々としている」という意味で、すがすがしさを感じているということ。

③ 「がらんどう」とは「空っぽである」という意味で、自分が様々ながらみから取り払われたということ。

④ 「がらんどう」とは「何もない」という意味で、本来あるべきものがない悔しさを感じているということ。

問7 空欄 d、e に当てはまるものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

6

① d 固有名詞 e ひよんな思いつき

② d 代名詞 e やわらかな関わり合い

③ d 固有名詞 e 強い結びつき

④ d 代名詞 e つきあいのはじまり

問8 傍線部オ「背後の世界をくぐるとき、わたしたちは一瞬にしろ、言葉というものを、放棄しなければならぬということなのだろうか」とあるが、筆者がここで表現したい内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

① 意識の世界では言葉が通用するが、自らの意識が届かない背後からでは言葉では力が及ばないかもしれないということ。

② 意識していない背後の世界を通り抜け、人と出会うことによって起こる衝突を避けたいということ。

③ 言葉のやりとりが成り立つ意識の世界だけでなく、言葉が無力な無意識の世界にまで関わり合う必要はないということ。

④ 言葉の通用しない背後から相手の意識の世界に到達するには、言葉は無意味であり、行動を起こすべきだということ。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

情報化社会と言われながら、有用な情報にはあまり接していない私たち

現代は情報化社会と言われていて、あたかも私たちは毎日大量の情報に触れているかのように思っています。確かにインターネット上にある情報の量はすごい。その気になれば、何でもいくらでも調べられます。

しかし、意外にみんなそれほど情報を摂取していないというのが私の印象です。

いつもスマホをいじっているのに、あれも知らない、これも知らない。「最近こういうニュースが話題だけど……」と話を振っても、「そのキーワードは聞いたことがあるんですが、どんな内容なんですか？」と聞かれてしまいます。どうやら、表面だけサーッとナ¹でてキーワードだけ拾っており、詳しいところまでは読んでいないようなのです。

「まとめサイトしか見ていない」という人もいます。知りたいことが簡単にまとめてあって、それでわかった気になる。わかった気になったけれど、聞かれると答えられない。間違って読んでいたり、すぐに忘れてしまったりします。

インターネットの海と言いますが、ほとんどの人は浅瀬でカイガラ²をとっているようなもの。深いところへ潜りにいく人はあまりいません。潜れば、まだ見たことのない深海魚に出合えるかもしれないし、知らなかった世界が広がっているのに、です。同じ海を目の前にしても、やることは人によって違うわけです。

専門バカになってはいけない

後ほどお話ししますが、読書は人に「深さ」をつくります。

この本でお伝えしたい「深さ」とは、一つのことを突き詰めただけの深さではありません。専門分野について突き詰めていても、他がまったくダメというのではバランスを欠いています。深さは全人格的なもの、総合的なものです。

大学生が本を読まなくなった話をしましたが、実は大学の先生も教養のための幅広い読書をしなくなっている印象があります。私は大学の採用面接でこんな質問をしています。

「あなた自身の教養になった3冊を専門以外で教えていただけますか？」

専門以外というのがポイントで、幅広い教養のある人なのかを確認する質問です。

学生に対して教養を身につけさせるには、先生自身に教養がなければなりません。

ところが、急に言葉に詰まってしまう人が多くなっています。「数え切れなくて言えません」というのならわかります。「3冊に絞るのは難しいので、10冊言わせてください」くらい言ってほしい。でも、残念ながら「専門ならすぐ言えるのですけど……」という人が増えているのです。

専門分野は当然詳しいのでしょうが、そのバックグラウンドとして一般教養があるべきだと私は思っています。哲学なしに科学をやるとか、文学的なものを知らずに経済学をやるとするのは危険なことです。だから大学1年生には教養課程があります。

それがリベラルアーツ¹というものです。

リベラルアーツの概念は古代ギリシャで生まれました。「自由になるための全人的技芸」という教育原理が起源です。人間が偏見や習慣を含めた呪縛³から解放され、自分の意思で生きていくために、幅広く実践的な知識が必要とされたのです。

その後中世ヨーロッパに受け継がれ、「文法・論理・修辭・算術・幾何・天文・音楽」という「自由七科」として定義づけられました。そして、これがのちに神学・医学・法律といった専門教育ができたときに、それより前に学ぶべきものとなったのです。

現代のリベラルアーツはその流れを汲みながら、近代に発達した経済学や自然科学などが含まれてさらに幅広くなっています。

近年リベラルアーツが重要視されるようになっていますが、グローバル化が進み、社会問題が複雑化する中で、問題解決には専門分野を超えた柔軟性が必要だと強く認識されているからでしょう。

専門分野の知識が豊富にあっても、その知識を生かすうえでは多角的な視点がなければ難しい。たとえば遺伝子工学を学んで、遺伝子操作の技術がわかったとしても、生命倫理とどう折り合いをつけるべきかという難しい問題に対処していくには歴史や宗教、哲学など幅広い知識が必要とされます。

ですから、ますます a が重要とされている時代なのに、本を読んでいないというおかしなことが起こっているのです。

「AIに負けない」なんて本末転倒

いま、AI（人工知能）に関心が集まっています。

2017年、AIが囲碁で世界トップ棋士に勝利したというニュースがありました。囲碁は将棋やチェスに比べて盤が広くて手順が長く、場面によって石の価値が変わるという特徴があります。チェスなら可能だった、「すべての手を覚え、計算して最適解を出す」というやり方が通用しづらいのです。だから囲碁では、コンピューターが人間に勝つのはまだ先だと思われていました。

ところが、2017年10月に発表されたグーグルサンのディープマインドによる「アルファゼロ」は、お手本となる先人の棋譜⁵データすら使わず、ひたすら自己学習により強くなっているとのこと。しかも、囲碁だけでなく他のゲームもできます。もはや人間の手を離れて、コンピューターが自分で学習・成長しているのです。

このようにすさまじいスピードで進化しているAI。この分野の権威であるレイ・カーツワイルは2045年にシンギュラリティ（技術的特異点）に到達すると言っています。人工知能が人間の脳を超え、世界が大きく変化するというのです。

AIに仕事を奪われないためには何を身につけておくべきか、AIにできないことができるようにしておくためにはどうすればいいのかといった議論も盛んです。

しかし私に言わせればそれはナンセンスです。「AIにできないこと」を予測したって簡単に覆るでしょう。現在の進化のスピードを見ても、普通の人間の想像をはるかに超える変化が起こるはず。そこで「AIにできることは学ばなくていい、AIにできないことだけ一生懸命学ぶ」という考えはリスクにはなりこそすれ、人生を豊かに

してくれません。

AIに負けないことを目的に据えて生きるなんて本末転倒です。それこそAIに人生を明け渡してしまったようなものです。

AIが出てこようが出てこなからうが、「自分の人生をいかに深く生きるか」が重要なのではないのでしょうか。

人生を深めるために、AIや未来予測についての本を読むのはとても有意義だと思います。たとえば「人間の脳を超えた知性を持つAIがいた場合、人間らしいやりとりをすることだって簡単だろう。それでは何が人間を人間たらしめるのだろうか？ 自分は人間に何を求めているだろうか？」などと本を片手に思考を深めていくことで、人生を豊かにしていくことはできるはずです。

人類の未来のために

私たち人類は「ホモ・サピエンスⅡ知的な人」です。

知を多くの人と共有し、後世にも伝えていくことができるのがホモ・サピエンスのすごいところです。書店や図書館に行けば、bが所狭しと並んでいます。偉大な人が人生をかけて真理を探究し、あるいは身を削って文学の形に昇華させ、それを本の形にして誰でも読めるようにしている。だから知を進化させていくことができます。

家族や友達とおしゃべりするだけなら、サルも犬もやっています。アリだってやっているでしょう（声を出してのおしゃべりではないかもしれませんが、さまざまなコミュニケーションはとっています）。でも、動物や虫たちは地域や時代を超えたところにいたものたちが、何を考えていたかを知ることできません。

本を読まないのは、ホモ・サピエンスとしての誇りを失った状態。

集中力もさらに低下して、いよいよ「本を読まない」ではなく「読めない」ようになってしまったら、人類の未来は明るくないのではないかとすら思えてきます。

繰り返しますが、ネット、SNSが悪いと言っているわけではありません。

この素晴らしいツールも人類の知が生み出したもの。うまく活用しない手はないでしょう。ただ、軸足を完全にそちらに移してしまつて、読書の喜びを忘れてしまうのはあまりにももったいない。読書は人間に生まれたからこそ味わえる喜びです。自分で自分の人生を深めていける最高のものです。

ネット、SNS全盛の現代だからこそ、あらためて本と向き合うことが重要だと思うのです。

（齋藤孝 『読書する人だけがたどり着ける場所』）

問1 傍線部1、2、4のカタカナを漢字に直し、傍線部3、5の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | F | 2 | G | 3 | H | 4 | I | 5 | J |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

問2 傍線部ア「みんなそれほど情報を摂取していない」理由として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① その気になれば、何でもいくらでも調べられるから
- ② いつもスマホをいじっているのに、話題のニュースも知らないから
- ③ 二次的な情報を間違って読んだり、すぐに忘れるから
- ④ インターネットという海を目前に、深いところへ潜っていないから

問3 傍線部イ「リベラルアーツ」に関する説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

9

- ① リベラルアーツは古代ギリシャで人々の自由意思によって作られた。
- ② リベラルアーツは中世ヨーロッパで専門教育として位置付けられた。
- ③ リベラルアーツは近代になってから経済学や自然科学へと発達した。
- ④ リベラルアーツはグローバル化社会のなかでますますその重要性が認識された。

問4 空欄 a に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

- ① 専門分野の知識
- ② 柔軟性
- ③ 教養
- ④ 哲学

問5 傍線部ウ「AIに負けないことを目的に据えて生きるなんて本末転倒です」の理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

11

- ① AIがさまざまなスピードで進化しているから
- ② AIが人間の脳を超え、世界が大きく変化したから
- ③ AIが出てこようが出てこなからうが、自分の人生を深めるべきだから
- ④ AIにできないことを一生懸命に学ぶべきだから

問6 空欄 b に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

12

- ① ホモ・サピエンスの知
- ② 古今東西の知
- ③ 偉人伝記
- ④ 文学作品

問7 傍線部エ「手」と同じ意味で使われたものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

13

- ① すべての手^レを覚え、計算して最適解を出す。
- ② 本を片手^レに思考を深めていく。
- ③ 囲碁は将棋やチェスに比べて手^レ順が長い。
- ④ もはや人間の手^レを離れた。

問8 著者の主張に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① 情報化社会の現代だからこそ、あらためて専門書と向き合うことが重要だ。
- ② いよいよ「本を読まない」ではなく、「読めなくなる」ことが心配だ。
- ③ ネット、SNSも人間の知が生み出した素晴らしいツールだ。
- ④ 情報化社会の現代だからこそ、本を片手に思考を深めていくことで、人生を豊かにできる。

(以上)